



がるがも



第42号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2015年〈平成27年〉10月



社会で育む子どもたち

病院長 伊達 裕昭



今夏は7月から8月前半の猛暑から一転してお盆過ぎ以降の涼しさへと、温度差も激しく一気に秋が訪れました。長雨も続き、体調の維持も大変と思います。皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

長い夏休みが明けて、朝の通勤時にまた元気な子どもたちの登校姿に出会います。たくましく日焼けした顔を見ると、休み中にどんな楽しい思い出を作ったか、聞いてみたくなります。

そんな子どもたちにとって楽しいはずの夏休みに、大変悲しいニュースがありました。大阪で二人の中学一年生が見知らぬ男に拉致されたうえ、帰らぬ人となった事件です。憎むべきはこうした犯行に及んだ犯人であることに間違いありませんが、なぜ夜中から朝の時間帯に中学生が二人だけで商店街にいたのか、どうして家庭や周囲の見守りや大人の声かけが無かったのか、という素朴な疑問を拭い去ることができない悲しい出来事でした。

病院の使命は、病気の子どもの診療することで子どもたちの健康を守ることです。しかしそればかりでなく、私たち医療従事者には、子どもの心身に生じた異常の原因が不適切な育児環境にあると判断する場合は、児童相談所に通告し、家庭環境を整える手伝いをするのも義務づけられています。その代表例は家庭内での意図的な暴力による虐待行為です。しかしいまはより広い観点で子どもの安全を考え、成育に不適切と思われる家庭環境に対しても改善のための介入が行われます。危険と思われる環境を子どもの周囲から排除することは、親に限らず周辺にいる私たち大人の、そして社会の重要な役割でもあるのです。そして見守るべき対象の子どもは、必ずしも幼い乳幼児ばかりでないことを今回の事件は示していました。

当院は年に2回、子どもまつわるテーマで公開講座を開いています。去る9月6日に開催した講座は「夫婦で子育て」で

した。その中で講師の先生から、秩父神社に掲げられているという「親の心得」が紹介されました。「赤子には肌を離すな、幼児には手を離すな、子どもには目を離すな、若者には心を離すな」というものです。

赤ん坊には絶えず触れてスキンシップを欠かさない、どこに行くか分からない幼い子にはいつも手をつないで離さない、自由に動き回る元気な子どもには手を離しても常に目で行き先を確認する、そして青年には例え離れて行動していても心配する気持ちを欠かさない、のが子を育てる親の務めだという教えでしようか。

これは家庭での子育てを念頭にした親の心得に他なりません。しかし地域全体で子どもを守り育てる適切な環境を作るためには、私たち大人に共通して求められる子どもを見守る視点でもあり、いわば社会全体の子育ての心得でもあると受け取りました。

少子化で人口が減少しつつある今、子育ては家庭だけの問題ではなく地域社会がともに担う重要な問題です。子どもたちの行動から目を離さず、必要に応じて声かけするような環境を整えるなど、地域にできる子育ての手伝いはたくさん有るように思います。未来の国を支える子どもたちを親とともに守り健康に育むために、家庭の外で社会が果たす役割の重要性について、改めて考えさせられた夏でした。

平成27年9月



千葉県児童虐待防止 医療ネットワーク事業

精神科部長 安藤 咲穂

厚労省の統計では、平成25年度の全国児童相談所における虐待相談対応件数は73802件、このうち千葉県は4561件、千葉市を含めると5374件です。これは平成20年度(県のみ2339、県・市2745)の実に2倍に上ります。

医療機関は、命にかかわる重症例に遭遇する可能性が高く、また様々な家庭事情の相談にのる機会も多いことから、虐待の早期発見・早期対応を担う場として厚労省から位置付けられています。しかし、我々医療関係者でも児童虐待に関する知識や経験は少なく、各医療機関の対応も充分組織化されているとは言えません。

このような状況の中、千葉県こども病院は近隣の児童相談所とともにスムーズな対応と連携に関する検討会を6年前から開催してきました。この会が徐々に発展し、現在では県内11の総合病院(平均病床数649床；こども病院を除く)と千葉市を含む千葉県全ての児童相談所なら



MSW (Medical Social Worker)
(左から) 五十嵐真澄 狩野文乃 河野司

びに千葉大学附属法医学教育研究センターを加えた一大組織となりました。そして7年目を迎えた今日、この取り組みが千葉県にも認められ、千葉県児童虐待防



止医療ネットワーク事業として正式に県から事業委託されることになりました。

事業の内容は、1)千葉県こども病院に児童虐待専門コーディネーターを置くこと、2)医療機関からの児童虐待対応に関する相談に対しコーディネーターが中心となって助言すること、3)医療機関等に対し児童虐待対応向上のための教育研修を行うこと、4)関係機関連携会議をおこなうこと、です。この事業を推進するに当たり、地域で児童虐待防止の中心的な役割を担う国保旭中央病院、国保松戸市立病院、東京女子医科大学八千代医療センターに、地域協力病院として事業の一翼を担っていただきます。今後9つの二次医療圏すべてに地域協力病院を置き、千葉県全域をカバーする体制作りを目指します。

未来を担うこども達のために、皆で協力して安心・安全な社会を築いていきましょう。



前列(左から) 込山香代子師長 五十嵐真澄MSW
河野司MSW(児童虐待専門コーディネーター) /
後列(左から) 土屋勝夫副主幹 安藤咲穂部長
梅津千若副看護局長

研修会・公開講座のお知らせ

●第4回千葉県小児臨床症例検討会

日時：平成27年10月28日(水) 19:30~21:00

会場：千葉県こども病院第一会議室

《ご紹介いただいた患者様の症例報告》

感染症科：『新生児細菌性髄膜炎の3例』

精神科：『心理療法で身体症状が改善した例』

《小児診療における各科のポイント》

形成外科：『先天性片側下口唇麻痺(口角下制筋麻痺)の治療経験』

●第2回児童虐待防止研修会

日時：平成28年1月16日(土)

14:30~17:00

会場：千葉県医師会 3階会議室

●平成27年度第2回県民公開講座

日時：平成28年2月7日(日)

14:00~16:00

会場：千葉市ビジネス支援センター会議室

きぼーる13階

テーマ：「身近な危険から子どもを守ろう」



詳細は病院ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

診療科紹介
心臓血管外科

部長
青木 満



千葉県こども病院心臓血管外科は、1990年から手術を開始し、2002年から私、青木が主に手術を担当することになり、2009年より萩野医師を加え二名の心臓血管外科専門医修練指導者による手術体制となり、現在心臓血管外科医師数6名で、循環器科、新生児科、集中治療科、麻酔科、産科の協力のもと診療を行っています。それに伴い手術件数も増加し、最近では年間150件程度の心臓大血管手術、うち110件前後の開心術を行っています。定例手術の手術待機期間は1か月程度で、新生児症例等の緊急性を要する疾患には随時受入と迅速な手術対応が可能な体制を維持しています。

早期診断、早期の修復手術を目標としており、周産期センターを併設した2012年以降出生前診断症例割合が増加し、新生児期手術症例が全体の四分の一を占めています。また、新生児期に修復し得ない疾



患に対しては、より正常に近い修復を目標に、段階的手術によって可能な限り二心室修復を目指しています。手術成績は、各科の協力のもとに全国でトップレベルを達成していると自負していますが、詳細に関しましては、ホームページ、年報に公開していますのでご覧ください。

患者さま、ご家族には、分かりやすい説明によって不安を最小限に抑えるように工夫をしています。セカンドオピニオン外来も行っておりますのでご利用ください。

診療科紹介
腎臓科

主任医長
久野 正貴



腎臓科の対象疾患は、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全(保存期・腹膜透析)、学校検尿の精査等がございます。

慢性腎炎に対しては、腎生検を施行して診断をし、疾患とその程度に合わせて治療をしております。特にIgA腎症に対しては、当院の耳鼻科のご協力のもと、扁桃摘出+ステロイドパルス療法を中心に治療を行っております。

また、ネフローゼ症候群に関しては、ステロイド治療はもちろんのこと、その他の免疫抑制剤や、2014年秋に保険適応となったリツキサンを使用しております。ご家族には毎日、尿試験紙で尿蛋白を確認していただき、尿蛋白が陽性となった場合は、当院に御連絡のうえ、基本外来での対処をしております。

その他、皆様に御紹介していただく溶血性尿毒症症候群などや、院内での急性腎傷害に対し、血液透析や腹膜透析を施行しており、多臓器不全、敗血症等には、血漿交換療法や吸着療法を施行することも



前列(左から)久野正貴医師 笹田洋平医師
後列(左から)苗代有鈴医師 末広真美子医師

ございます。また、慢性腎不全となってしまった患児に対しては、主に腹膜透析を導入し、腎移植にむけた準備を移植施設と連携しながら行っております。

腎疾患は、長期間フォローしていかなくてはいけないことが多いため、それぞれの年代に合わせてご家族の方々と一緒に経過観察を行っております。なるべく同じ年代のお子さんと過ごし、その中で子どもたちが様々な経験ができるようにサポートしていきたいと思っております。当科は2~3名ほどのスタッフで、日々の業務を行っております。やや力不足な点は否めませんが、尿の異常等ございましたら、できる限り対応してまいりますので、ご連絡いただければ幸いです。

〈千葉県こども病院 登録医のご紹介〉

まなこどもクリニック

〒266-0032 千葉県千葉市緑区おゆみ野中央7-9-2
TEL 043-226-9920 FAX 043-226-9921

まなこどもクリニックは、千葉県こども病院から車で10分ほどの位置にあり、こども病院には日頃から大変お世話になっています。

平成10年に当地に開業、病児保育室＜ポピンズルーム＞も開設いたしました。当時は千葉市内には他に病児保育室がなく、こども病院のスタッフのお子様たちも数多くお預かりいたしました。陰でこども病院の医療を支えることができたことは、大変光栄に思っています。

当クリニックは、小児の急性疾患の診療のほか、喘息・夜尿・便秘などの慢性疾患の診療にとりくんでいます。予防接種のスケジュール作り、接種勧奨にも大変力をいれています。

また、子育て支援は小児科クリニックの重要な役割と考えています。スタッフ全員が子育てと小児保健のエキスパートとなり、地域の子どもたちとお母さんを支えようという自負もっています。子育てに行き詰ったお母さんの負担

診療時間 午前9時～12時
午後3時～5時
乳児健診・予防接種
午後2時～3時

休診日 木曜日・土曜日午後・日曜・祝祭日



前列右側が(原木)真名院長です

を軽くしていけるように考えています。臨床心理士による子育てアドバイスや発達障がいについての相談、スタッフによるペアレントトレーニングプログラムはその一環です。メディアからこどもを守る取り組みもしています。クリニックの待合室にはテレビは置かず、本棚には500冊近い選りすぐりの絵本を用意してあります。

次世代を担う子どもたちが、心も体も健やかに成長していけるよう、これからも地域の中で活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



テレビをなくして置いている本棚



病児保育のようす

そがこどもクリニック

〒260-0834 千葉県千葉市中央区今井2-11-17
TEL 043-209-1656 FAX 043-209-1657

みなさん、こんにちは。そがこどもクリニックの田邊です。当クリニックは京葉線の終点、蘇我駅西口から徒歩5分の所にある小児科専門のクリニックです。蘇我は東京への通勤の利便性が高く若いご家族が多い地区で学童以下のちいさなお子さんをはじめ子供の数が多い地区です。

千葉県こども病院で18年勤務した後、早いもので開院して10年目になります。

病院勤務の頃は希少難病疾患を中心に診療を行って参りましたが、現在は地域のお子さんのどんな病気も気軽に相談を受け診療するとともに、時には緊急性、重症度によって二次三次医療機関にお子さん達を紹介し問題解決にあたることを当クリニックの役割の一つと考え日常診療にあたっています。私達医療関係者から考えると何でもないことのような問題も、若いお母さん方にとっては大きな悩みになることもあり、少しでもお役に立てるよう、よく説明するように心がけています。

さらにこれからの小児科の大切な役割は乳幼児健診と

診療時間 午前9時～12時
午後3時～6時
乳幼児健診・予防接種
午後1時半～3時

休診日 水曜日・土曜日午後・日曜・祝祭日



田邊院長

予防接種をよりいっそう充実させ予防できる病気を確実に増やしていくことです。お子さんをお持ちの共働き世帯が全体の7割近くなった現在、平日夕方あるいは土曜日午後に健診予防接種の時間を設けています。

千葉県こども病院には急性疾患では小児救急総合診療科の先生方に、またそのほかの内科系外科系の各診療科の先生方にはさまざまな病気に的確に対応していただき、大変感謝いたしております。今後ともよろしくお願いいたします。



そがこどもクリニックのスタッフのみなさん



そがこどもクリニック外観